

終わりました。ありがとうございました！

第 43 回発表会 2020 年 10 月 16 日（土） 神戸文化大ホール 出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆

コロナの緊張の下での発表会でしたが、出演者、保護者、スタッフのみなさまのおかげで無事に開催することができました。改めて感謝申し上げます。毎年当たり前のように開催してきた発表会ですが、当たり前のことではないのだと、毎回貴重な機会をいただいているのだと、身にしみて知ったこの度の会でした。そんな中で、本当に久しぶりに出演して下さったお二人がいます。小さい頃からずっと習ってくれて、少し遠ざかってまたこうやって踊れるのだなあ、本当にうれしく思っていました。そんな二人からの感想です。

かつて小学生の頃から高校卒業までお世話になっていた藤田舞踊研究所、この度約 20 年ぶりに発表会に出させていただきます。20 年間、踊りたいという気持ちが常にありながらもずっと遠ざかってしまっておりましたが、息子が 2 歳になり親子クラスにお世話になり始めたことをきっかけに私自身も再びお稽古に通い始めました。長い年月のブランクから思い通りに動かない体にいつももどかしさを感じながらも、表現し踊る楽しさ、そしてかつて熱中した場所にまた戻って来られた懐かしさと嬉しさをかみしめながら通わせていただいています。そしてこの度はついに息子初舞台&親子初共演！…となるはずでしたが息子はあえなく撃沈…ほんの一瞬の初舞台でした（笑）それでも、私自身はとても気持ちよく舞台上で踊らせていただき、なんとか無事役目を終える事ができたことに心からホッとしました。泣き叫びながら舞台袖にいた息子、彼なりに精一杯頑張った姿もまたいい思い出となりそうです。先生方におかれましては、コロナ禍において例年の何倍ものご苦労がありがたかったです。出演者が思う存分力を出し切って踊ることができるよう準備し尽力して下さったことに心より御礼申し上げます。またスタッフ、関係者の皆様、一緒に踊って下さった皆様、本当にありがとうございました。 岡田奈央

今回の発表会は 15 年ぶりに参加しました。小学生から大学生までの期間、大久保教室に通っていましたが、就職・結婚・子育てをしている 15 年間バレエから離れていました。今年から、3 歳の息子をつれて本部教室に通いレッスンを再開しました。発表会の舞台上に立った時、緊張で頭が真っ白になるかなと思いましたが、「楽しい！嬉しい！」という気持ちでいっぱいになりました。踊りを終えた後は、「もっと上手に踊りたかったな。」という気持ちです。自分で思っているようには身体が動かずもどかしさを感じますが、これからも毎週のレッスンで出来ることをひとつずつ増やして、来年はもっと自信をもって踊りたいです。毎週、レッスンについてきてくれる息子（今はバレエに興味を示してくれませんが・・）とも、いつか同じ舞台上に立てたいなと思います。 岩井 鑑恵

かじのり子モダンダンスステージV 11月7日（土） ファッション美術館オルビスホール

出演 安岡珠希 南琉花 坂本まつり 石井棚結 吉川菜々子 高橋陽奈 岡村春花 中野菜歩 坂本のより 大井遥 門家由采 渡邊菜子 菊原麻理奈 菊原麻衣花 稲益夢子 佐藤茉莉 田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 菊本千永 金沢景子 かじのり子

2020 年 10 月の発表会に引き続き、11 月 7 日にかじのり子モダンダンスステージV を無事終えることができました。本当にありがとうございました。このコロナ禍での開催、お陰様でたくさんの方々にお越しいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。昨年は、3、5 月の創作実験劇場が中止となり、コンクール、イベントなどのたくさんの踊る機会がなくなりました。それらを余りにも呆気なく失ったので、無気力になりかけました。そんな時、踊りたい余り、無観客公演でも舞台は舞台、お客様が居なくても踊れたら良いのでは、と言う思いが心をよぎりました。それは偽りの気持ちだった！と、リサイタル本番中に気付きました。たくさんのお客様を前に、やはり、踊りを見ていただきたい、受け取って欲しい、そんな気持ちがムクムクと湧き上がりました。というわけで、今後も舞台上、有観客で踊りたい！と強く思います。 かじのり子

舞台は若いダンサーまでもが シャープで優美、そして見事なアンサンブル。時間を惜しんで観ました感動はまだまだ忘れられません。 シアターX 上田美佐子

本公演では 3 作品が上演されたが、1 作目「わたし—かのじよの延長—」は、こびりついた常識を取り払い、別の角度からの“自分自身”を見つめ直させてくれた。角田光代の小説「私のなかの彼女」中の『彼女の延長である私』という文言からヒントを得て作られた作品。わたし（かじのり子）と過去・現在・未来のわたしを表す 20 名のダンサーが、舞台上を駆け巡るように踊る。時にわたし一人が取り残され、天井を見つめる姿は「どうやって生きようか」と孤独に思い悩む深層心理が伝わってくる。その後、他のダンサー達と融合して踊る舞台からは、時の流れとともに刻々と変わる“自分自身”を見つめているような心地になった。過去・現在・未来と、変化し続ける一人一人の私は、誰一人として同じではない。日常では意識したことがないが、大勢のダンサーの踊りで訴えられたこの考え方は心に響いた。本作品がもっと伝われば、孤独に悩みを抱えている人の救いになるように感じた。公演終了後は、明日の“わたし”に出会えるのが楽しみになって来た。 関西音楽新聞 (Classic Note) 2020 年 12 月 1 日 金子真由

寄付をありがとうございました。

今年も、気仙沼市の旭が丘学園にみなさまからのご寄付をお送りすることができました。園長先生からも感謝状をいただいています。みなさま、どうもありがとうございました。

観に来て下さい

創作実験劇場 2021年3月14日(日) 17:30~ 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール

出演 坂本まつり 吉川ひかる 岡田珠季 住谷蒔 安岡珠希 菊原麻理奈 渡邊菜子 門家由采 坂本のより 北川武胡 高橋陽奈
石井麻子 板垣祐三子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 梁河茜 平岡愛理 田中文菜 稲益夢子 菊原麻衣花 東仲一矩

ダンスグループ「自灯明(じとうみょう)」を立ち上げました。

メンバーは、梁河茜、平岡愛理、田中文菜、稲益夢子、菊原麻衣花の5人です。

5人は3歳、4歳のころから社会人になっても(二人はまだ大学生です)この研究所で習い続け、発表会にもリサイタルにも創作実験劇場にもずっと出演してきました。

彼女たちの長い人生で、これからももっと深く踊りと関わってもらいたいと願っていました。

今回話し合いを持ち、彼女たちも強い意志を示してくれて、ダンスグループを立ち上げ、「自灯明」と名付けて出発することになりました。

今年の11月には旗揚げ公演をいたします。何卒強大なお力添えをお願いいたします。

藤田佳代

Re-birth 産土

産土(うぶすな)万物を生み出すエネルギー。ドラム演奏と踊りは即興です。

金沢景子

水鏡

ありのままを映し出す「水鏡」をテーマに二人で作舞しました。初めて出品させていただくので緊張しますが、頑張ります。

菊原麻理奈 渡邊菜子

掘る人

いったいどこまで遠くへ 走ろうというのか 誰かのうしろを 追いかけて／生きるとは 薄紫色に燃える 地平線に向かって 駆けてゆくことではなく／「私」という 小さな地面に 自分の身体が 入るくらいの 穴を 掘ることかもしれないのに 若松英輔「掘る人」の一節

つい誰かと自分を比べてしまうことがある、そのたびにこの詩を思い出して、「違う違う、私の穴を掘るんだ」と自分にいい聞かせています。

皆みんな、自分サイズの自分の穴を「掘る人」。

向井華奈子

かぎろひ

かぎろひは、太陽が昇る前の東の空に見える明け方の光、曙光(しょうこう)のことです。

毎年、初日の出を見るために保久良山に登っていました。暗い内から上りはじめ、頂上に着く頃には、あたりも明るくなり、太陽の昇る東の空がどんどん赤くなっていく。今か今かと日の出を待つワクワク感。

この光を4人の若手の踊りでお届けします。きっと闇を払って太陽をもたらしてくれることと思います。

寺井美津子

この子が無事に帰るまで

「行ってきます」とでかけたこの子が無事に帰ってくる。当たり前でなければならぬけれど、実は小さな奇跡の積み重ね。

「ただいま」「おかえり」がいつまでも当たり前にありますように。

菊本千永

広がる—伊丹三樹彦自選 三百句より

・入り日は待つ 菜摘少女の籠満つまで

籠を背負って菜っ葉を摘みに行ったことはありませんが、私は一度だけ摘んだ菜っ葉を両手に持てるだけ持って夕焼けの下を帰った覚えがあります。

・一夜にて 火の手のあがる 彼岸花

彼岸花は花が終わった晩秋に濃い緑色の葉を出します。その葉は夏になると消えてしまいます(休眠というそうです)。そして、秋の彼岸の頃に淡緑色の細い柱の上にかあっと赤い花を咲かせます。今回は緑色の衣装を着ています。

・風神の道 ありありと 芒山

・三羽いて 三羽の孤独 汐木の鶯

・杭打って 一存在の 罌呼ぶ

フラメンコダンサーの東仲一矩さんのソロです。どんな踊りになるのか楽しみです。

・地の落下 宙の落下と舞つれて

落下するこの花たちは梅です。さっきまでは人間でした。あの世とこの世とその世を行ったり来たりしているようです。

藤田佳代

こんなに晴れた朝だから

マスクをとって出かけた

かじのり子

灯

今回、佳代先生に私たち5人で「ダンスグループ自灯明」という名前を付けて頂きました。そして11月には今までの作品や新作を集成として発表できる機会を頂きました。3月の創作実験劇場では、その第一歩として「灯」という作品を創りました。

先の見えないこの世の中、思い悩むこと、不安に苛まれることは自然の流れです。それでも自分に影を落とさず、灯し生きていかねばなりません。

自分の人生は、自分自身で歩むもの、誰も代わってくれません。身にまわりついているもの全部を引き剥がしたとき、自分は一体どんな人間なのでしょう。

世の中が目まぐるしく変化していく中、「灯」が明日に、そして未来に繋がりますように。

まだまだ道半ばの私たちの人生のように荒削りな部分もあると思います。ですが現在の私たちだからこそその作品を楽しんでいただけたら幸いです。

自灯明(梁河茜 平岡愛理 田中文菜 稲益夢子 菊原麻衣花)